保険Q&A

保険で鍼灸治療が受けられるの？

質問 **どのようなときに鍼灸治療を健康保険で受けられるのですか？また、必要な物は何ですか？**

こたえ

保険で受けられる傷病名には、次の７つがあります。
これらの症状に対し、「医師の同意書」があれば健康保険で鍼灸治療が受けられます。
①神経痛（顔、腕、腰、足など神経に沿って痛む。たとえば坐骨神経痛、肋間神経痛など）
②リウマチ（手首や肘、膝、足首など、各関節が腫れて痛むもの）
③腰痛（腰が痛む。たとえば、変形性腰椎症など）
④五十肩（肩の関節が痛くて腕が上がらないもの）
⑤頚腕症候群（頚、肩、腕の痛みやしびれ、だるさなど）
⑥頚椎捻挫後遺症（頚の外傷、むちうち症などの後遺症）
⑦その他の疾患（慢性的な痛みのある疾患で保険者が認めたもの）

病院で上記病名で治療中の場合は、保険は適用になりません。
なお、健康保険以外の鍼灸に関する疑問については、最寄りの日本鍼灸師会会員の鍼灸院にお問い合わせください。

スポーツフォーラム in 岡山 案内

第７回臨床鍼灸スポーツフォーラム in 岡山

市民公開講座「免疫と運動と健康寿命」（予定）

■講師：岡山県立大学情報工学部
　　准教授　綾部誠也　先生
■期日：平成 28 年 8 月 21 日（日）　10 時開始予定
■会場：朝日医療大学（岡山県岡山市）
※内容についての詳細は（公社）岡山県鍼灸師会・（公社）日本鍼灸師会ホームページでお知らせします。

INFORMATION

公益社団法人日本鍼灸師会　公式サイト

メールマガジン
「登録は無料」です

毎月２回の予定で、東洋医学に関するさまざまな話題をお届けします。
日本鍼灸師会ホームページより簡単に登録できますので、ぜひご利用ください。

The 12th Annual Conference of JAMAPIAC,2016 in Fukuoka

古人（いにしえびと）の叡知「鍼灸」

―未来へ繋（つな）ぐ学と術（わざ）―

第12回（公社）日本鍼灸師会 全国大会 in 福岡

会期 平成28年 10月9日（日）・10日（祝・月）

会場 パピヨン24 ガスホール
福岡市博多区千代1-17-1 TEL 092-633-2222

招聘講師決定！
☆九州大学名誉教授　ヴォルフガング・ミヒェル 先生
☆茨城大学人文学部教授　真柳　誠 先生
☆医療法人社団 正樹会 佐田整形外科病院 理事長・院長
佐田正二郎 先生

主催
公益社団法人 日本鍼灸師会
Japan Acupuncture & Moxibustion Association
http://www.harikyu.or.jp

お問い合せ 大会事務局
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目5-12
（一社）福岡市鍼灸師会会館内
TEL 092-461-2745 FAX 092-461-2746

公益社団法人日本鍼灸師会

けんこう定期便

No.24
2016.3

歴史探訪 艾製法
保険 Q&A
第7回臨床鍼灸スポーツフォーラムin岡山
「メルマガ」案内

特集

あの頃のように 素直な心で

絵画に宿る不思議な『何か』、
「絵が伝えるメッセージ」を感じる

画家：宮武貴久恵氏

「今、おいくつなんですか?」。取材を終えた若いインタビュアーに、笑顔で問いかける画家の宮武貴久恵さん。「とても素直に見えるわ。その素直さって、すごく大事。やっぱり成長するには素直が一番だと思って……ね」。子どものように素直な心のまま絵筆を振る宮武さんですが、純真無垢なその心は、画家にはなくてはならないものなのかもしれません。彼女に紡いでいただいたお話に、ふと幼い日の記憶がよみがえります。童心にかえり心を開いて、自然体で絵を愛でる――宮武さんの一言一言が、そんなひとときへと誘ってくれるようです。

季節は草木の芽吹く春。カラダにも健康な感覚が芽吹くよう、そよ吹く春風にリズムを合わせ、美術館をめぐってみてはいかがですか?きっと素直な気分になれるはずですよ。

（中面へ続く）

発行／公益社団法人 日本鍼灸師会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-44-14
TEL：03-3985-6771　FAX：03-3985-6622
E-mail：info@harikyu.or.jp
発行者／仲野弥和
編集担当／一見隆彦・赤井康紀・工藤恒
制作・印刷／株式会社 キューアイ・マネージ

――そもそも画家になるきっかけというのは？小さい頃から絵を描くのが好きな子だったのでしょうか？

好きかどうかじゃなくて……子どものとき、私の落書きを見た母がひらめいたんです。窓際にちょこんと座って、すりガラスに指で描いた落書きが、たまたま寝ている人だったから……「あれ？この子、もしかしたら……」なんて感じでひらめいた。「たいていの子どもは立っている人を描くのに……ひょっとして」と思ったんでしょうね（笑）。それが、4歳のときです。絵と呼べるのかとても怪しいですけど、初めて描いた絵が寝ている人の姿で、それを見た母のひらめきがあって、それから絵を習うようになりました。それが、画家への一歩だったと思います。

――落書きが始まりとは（笑）。わずか4歳で絵を習い始めてから5年、9歳のときに衝撃的な出会いをされたと伺いました。

9歳のとき美術館へ、「ピカソ展」を見に行ったんです。何気なく訪れた企画展なのに、これがもうすごくて。ものすごく感激して……「ああ、絵描きになりたい」っていう思いが、そのとき自分の中にはっきりと生まれました。ピカソの絵を見た瞬間にもう「絵描きになりたい！」って、あまりにもはっきりと決めてしまったんです（笑）。でも、それを聞いた母はさすがに、「ちょっと待って」と慌てましてね。絵を習わせてはいたけれども、やっぱり9歳の子どもが「私には絵しかない」と思い込むのが不安というのか……娘ながらにちょっと怖かったみたいですね。

――何とも芸術家らしいエピソードですね。でも、初志貫徹で立派な画家になられました。今でもその頃の気持ちは忘れていないですか？

ピカソを見たのが9歳でしたけど、「何であのとき、ピカソだったのかな」って。大人になってから、ふと思うときがあります。好きな画家っていうのは、だんだん変わっていくものですけど、どうしてあのときピカソにあんなにも感激したのか、今でも不思議に思うんです。でも、考えてどうこうじゃない。やっぱり直に訴えてくるものが、ストンと子どもの心に入ってくるものがあるんですよね、絵画には。私も、ピカソの絵の内にある何か「見えないもの」に、魅せられたんだと思います。

――子どもの心にスッと入ってくる、何か「見えないもの」。鍼灸の世界でいうところの「気」に通じるようなものなのでしょうか？

そうかもしれませんね。絵画というと何か「物（もの）」、たとえば富士山なら、あの特徴的な姿と山頂の雪とか「見えている姿形を再現する」と思ってらっしゃる方が多いと思いますけど、それだけじゃない。それ以上のものなんですよね。目に見えているものプラス、目に見えないものを描く。目に見えないものまで描き出す。その目に見えないものが、絵を見たときに、何か息吹のようなものとして伝わってくる。〝放つもの〟とでも言えばいいのかな？エネルギーとか、作家の気迫とか、思いとか……見ているだけなのに、そういうものをひしひしと感じます。

――絵画に宿るエネルギーですか……。見えないのではもう、感じるしかないですよね？それにはやっぱり、美術館がいい？

そう、美術館。ちなみに私、美術館に行くときは必ず、食事をしてから行くようにしているんですよ（笑）。というのも、絵のパワーに圧倒されてしまうというか……見るだけなのに、ものすごくエネルギーが要る。創作って、普通に生活する以上のエネルギーがないと向かっていけないんですけど、そうやって画家も全身全霊で描いているから、真剣勝負というか、軽く見ようと思っても駄目なんですね。そうして実物と真正面に向き合うと、絵の持つエネルギーや気のようなものが自分の中に入ってくる。多くの絵に触れて、たくさんのメッセージをいただいて、自分の目で肌で「これはいいものだ」って感じること。そして、「人が良いと言ったから良い」じゃなく、自分の中で判断できるようになることが大切なんだと思います。

――やはり実物は別物だということですか？

別物ですよね。タッチとか。たとえて言うなら……生き物ですよ。うん、本当に生き物。そこに宿るものは、図録になんか出てこない。どんなに高性能なカメラだって、やっぱりその〝何か〟は映せない。以前、某テレビ局の社長さんが「カメラの限界を感じた」っていうぐらい。撮れないんです、絵の持っている〝何か〟、雰囲気というのは。それを見て、感じとるためには、とにかく生の絵に触れて……いろんな絵を間近で見て、心のままに感じることが一番だと思うんです。よく「心を開いて」と言われるでしょ？そんな感じに近いのかもしれませんね。

――幼い子どものように飾らない、素直な心にしか「うつらない」ものが、きっとあるのでしょうね。

絵の審査なんかすると、面白いんですよ。学年が上がるにつれて、絵がつまらなくなる（笑）。小学校1年、2年あたりが面白くてね、6年生ぐらいになると、もう本当に……そのまま。「姿形を再現しました」って感じになって、どんどんつまらなくなっていく。のびのびとね、おおらかに描いているものに、いいものがあったりします。それが、絵の持つ〝何か〟につながっているんだと思いますよ。大人になっていくと、だんだんに削られていってしまうから……そういう心を残していくって、難しいですよね。

――お話を聞いていて、何か心が洗われたような気がします。最後にひとつ。今の時代、「現代」というテーマで絵を描くとしたら、いったい何色になるのでしょう？

今の時代って、危ういっていうか……すっきりした色にならない。混迷している感じ、ちょっと複雑で危うい感じがします。「ホリゾンブルー」って、地平線をイメージした薄いブルーがあるんですけど……強いて言えば、そうした「ブルー」でも「グレー」でもない、どちらにも向けるような、微妙な色が浮かんできます。これをすっきりした色、はっきりと時代の色にするには、現代はあまりに混沌としている。でも

それは、みんなで輝かせていかなくてはって思うんです。そして、その微妙な色を、たとえばはっきり「水色」と言えるようにするには、みんながそれぞれの世界で精いっぱい努力しないといけない、私、そう思うんです。

＊　＊　＊

「ニューヨーク留学があって、旧東ベルリンの壁に「世界の平和と統合のため」の壁画を描くプロジェクトに参加、そして、ベルリンから日本に戻って震災を経験して……今ここに居るのは、自分が正しい場所に居ると思えてならない」。その素直さゆえに、時代の悲しい出来事にも心を痛めてきた宮武さん。そんな彼女が〝正しい場所〟と言う三重県の大自然を素材にした「天使の舞い降りるところ」の制作が、今進んでいます。「そこにはセンペルセコイアという巨木が育ち、大きな慈愛と温もりが感じられる。テーマのように本当に天使が舞い降りるところと思えるような、人々の希望や豊かさ、未来に向かう知恵を描いていきたい」と微笑む姿に、なぜかほっとさせられたひと時でした。宮武さんの思いが宿る「天使の舞い降りるところ」は、きっとみずみずしい、はっきりとした色に包まれた楽園になるのでしょう。

宮武 貴久恵氏<プロフィール>

1979年　ニューヨーク・アートチューデンツ・リーグに留学／抽象表現主義の巨匠リチャード・プーセットダートに師事
1983年　ナショナルアートクラブ展名誉賞受賞
1986年　ニューヨーク・アートチューデンツ・リーグ2年連続ベストイン賞「滲み出る光」、学校の永久コレクションになる
1987年　ニューヨーク・ブロードウェイにスタジオ開設
1988年　フランクフルト・マッキャン・エクソンで個展
1989年　中日新聞「アートトレンド」欄にニューヨークの美術記事連載
1990年　ニューヨーク・ストラウス画廊でグループ展／ニューヨーク・ソーホーT&Nギャラリーで個展／ベルリンの壁に壁画を描く
1993年　14年間の渡米生活を終えて帰国
1999年　ゲーテ生誕250年を記念したフランクフルトのアートコンクール「ゲーテ99」で受賞
2001年　ベルリンのギャラリー・ゾーンFで個展／フランクフルト・マッキャン・エクソンで個展
2009年　ベルリン再訪し壁画修復／三重県立美術館県民ギャラリーで「宮武貴久枝50周年記念絵画展」開催
2014年　テーマ「天使の舞い降りるところ」で制作活動

艾（もぐさ） 鍼灸歴史探訪

ジャパンクオリティー「日本の伝統精製技法」を後世へ

お灸の治療に使われる艾（もぐさ）は、ヨモギの裏側にある繊毛を精製して作られます。不純物のない高品質な艾は点火しやすいうえ火力が穏やかで、とても心地よい刺激を与えられるといわれます。今回の歴史探訪では、高級艾の伝統的な精製技術を現代に継承する新潟県上越市の佐藤竹右衛門商店を尋ねました。

国産の高級艾はその多くが新潟県で製造されています。時代とともに高級艾を精製する工場が姿を消していく中、佐藤竹右衛門商店は明治29年の創業以来、上越地方に自生する天然ヨモギを原料として点灸用艾を作り続けています。

同社はその伝統技術を継承するため、早くから近代化にも取り組んで来ました。しかし、明治から昭和初期に現在の製法を確立した後、戦後には動力を水力から電力に切り替えましたが、石臼や唐箕など使用する用具は昔のまま、古式の道具に勝るものはないそうです。

海外最上級の艾と佐藤竹右衛門商店の上級艾を手に取り比べてみたところ、しっとりとした柔らかさから、一触りでその違いが判りました。近年、海外から製法伝授や無給での工場労働者受け入れの要請もあるそうですが、技術流出を懸念するばかりでなく、日本と国外の艾の種類の違いなどもあり、丁重にお断り続けているそうです。

鍼灸師の施灸は、皮膚の状態、微妙な温度・湿度だけでなく、艾の柔らかさや堅さを手触り感覚で調整する繊細なものです。明治の創業以来一二〇余年、灸治療の歴史を艾精製技術で支える「職人のこだわり」は、まさに「ジャパンクオリティー」であり、確実に後世へ継がれるべき伝統技法であると確信しました。

ヨモギから艾への精製工程イメージ

冬の間雪に覆われた上越に春が訪れ、間もなく新緑の季節を迎えます。
澄み切った初夏の日差しを浴び色鮮やかに育成したヨモギは、伝統を受け継ぐ職人の手によって最高品質の艾に生まれ変わります。

（写真提供：有限会社佐藤竹右衛門商店）